

中国の「高考」(大学入学試験) 事情

岡山県上海事務所 専任スタッフ 馬小琳

6月は中国の受験シーズン

毎年、6月の7、8、9日には、中国の各地で、年一度の大学入学試験が行われます。この三日間の試験は「高考」(普通高等学校招生全国统一考试)と呼ばれ、この時期になると、各地はある種の緊張感に包まれ、都市部では、受験生が試験会場に間に合うようにパトカーが先導するなど、交通機関や学校、ホテルなどが「高考」の受験生に対し、特別な配慮を提供します。

中国では、日本と同じように小学校(6年制)、中学校(3年制)、合計9年間の義務教育に加え、高校(3年制)、大学(4年制)の教育制度を実施していますが、この三日間の試験が、それまでの12年間の在学の成果を測り、その後の運命を左右するといっても過言ではありません。



上海市北西部にあり、北京大学や清華大学に次ぐ名門校といわれる華東師範大学

高考の成り立ちと激化する受験競争

1949年の新中国成立から3年後の1952年に、全国で初めての全国统一入学試験が実施されました。その後、1966年から1976年の文化大革命の間、「高考」は中断しましたが、1977年に

復活しました。

現在、多くの人々が、学生の受験に関するブレッシャーが強くなっていると感じています。大学へ進学できない人の中には、経済的理由による人もいますが、最も直接的な原因は、「高考」の激しい競争と大学数の不足だといわれています。毎年、約1,000万人の学生が「高考」を受け、大学に行くことが自分の人生を変える唯一の方法だと人々は信じてきました。

増える海外留学

しかし、中国の急速な経済発展や人々の生活レベルの上昇に伴い、「高考」受験が成功への唯一の道ではない、と考える人も増えてきました。多くの学生やその親が海外留学に注目し始め、実際に、北京や上海、南京など大都市の高校では、「高考」ではなく、海外の大学を受験する学生の数が増えています。統計によると、今年「高考」の受験者数は1,020万人で、去年より40万人減りました。ここ数年、受験者数が増え続けてきた「高考」としては、初めてのことです。

現在は教育の多元化の時代です。教育も激しい競争に直面する時代を迎えました。ある研究報告によると、2025年には、世界中で留学生が800万人に達するといわれています。海外留学をはじめとした高等教育の国際化の発展に伴い、家庭の収入の向上や人民元高により経済的に豊かになった中国でも、今後、就職の際に有利になるよう、語学に加え、専門のスキルを身につけるために、海外留学を希望する人は益々増えていくでしょう。

教育制度改革の必要性

中国の「高考」制度には、50年あまりの歴史があり、制度の改革は容易ではありませんが、経済の発展に伴い、教育に関しても改革を行わなければならない時期が来ています。より民主的で、社会のニーズに応じて、誰もが大学に入る権利を持ち、希望する学生が全員大学教育を受けられるような改革が求められています。